みなとユネスコ会報 Bulletin
MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR
ISSUED BY／MINATO UNESCO ASSN. 16-3,SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004／HIROSHI NAGANO PRES.
発行所／港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 Tel：03-3434-2300 Fax：03-3434-2233 発行人／永野博
Mail：info@minatounesco.jp https://minato-unesco.jp

2022 年 3 月 1 日発行　第 167 号

目　次

P.1　巻頭言	P.5　ウクライナ危機へのユネスコ声明
P.2-3　第 5 回日本語スピーチコンテスト	P.6　事務局便り
P.4　クルーズ船で東京の森川海を知る	

羽田空港新ルートによる飛行機の騒音は我慢すべき問題か

港ユネスコ協会　会長　永野　博

港ユネスコ協会の所在する港区や近隣の目黒区、品川区の住民の間では、訪日客の増大などを見込して 2020 年から運用されている羽田空港への新着陸ルートが問題になっている。飛ぶのは南風の日で、時間は午後 3 時から 7 時までの 3 時間程度、高度は 700～450 メートル、かなりの低空飛行である。事前の説明では、道路での車の騒音程度という説明だったが、飛行機となると、その影響は道路という線ではなく、広大な面となるので、影響を与える範囲が全く異なる。

そもそも首都の中心部分の上空を旅客機がこんなに低い高度で飛んでいるところがあるのだろうか。ロンドンのテームズ川をかなり上空から見たり、パリのエッフェル塔を遠くから見たことはある。ワシントンやベルリンは空港が街から近い。しかし、どこでも町の直ぐ上空を飛行機が飛んでいるのは見たことがないし、当然、騒音に気づいたこともない。

各地の区議会などでは反対の意見書が採択されたりしているが、住民による大きな反対運動が起こらないのは日本的ということだろうか。飛行機からの落下物があるかもしれないから危険だという以前の問題として、本来、政府の役割は市民のより良い生活環境の実現にあるはずなのに、広範囲にわたる環境の改悪がこれほど簡単に現実化するということには驚くばかりである。科学技術の発展は、その成果が市民に還元されることに意義があり、それだからこそ研究開発に予算がついている。成果の好事例である飛行機が毎日のように多くの市民の気分をいら立たせるとなると、科学技術に対する市民の共感も失われる。

この問題の根源はどこにあるのだろうかと考えると、その一つは政策決定の方式にあるのではないだろうか。スイスのような直接民主主義のシステムは取れないとしても、今世紀に入りフランスの気候市民会議のように、法制度決定にあたり市民と共創する動きが顕著になってきている。代表制民主主義がよいか悪いかという以前に、市民に影響を与える政策を検討する際には、市民が同等の資格で参加するシステムを考える必要がある。追いつき追い越せという戦後の日本の成長時代であれば一部に負の影響があっても突き進むという方式も認められたかもしれないが、ある程度成長を遂げ、国連の定めた持続可能な開発目標（SDGｓ）を議論することのできる時代になった今、市民に影響を与える政策の決定方法には変化が求められる時代になってきている。

2021 年度港ユネスコ協会 40 周年記念　第 5 回　日本語スピーチコンテスト

日時：2021 年 12 月 12 日（日）13:30～16:00
会場：港区立男女平等参画センター「リーブラ」ホール

今年の出場者数は過去最多の 12 名!! やったあ! と 思わず、ガッツポーズでした。

第一回のコンテストは出場者 7 人で始まりました。MUA の先輩方は地道に、港区内にある沢山の日本語学校に足を運んで出場者を募ってきました。そのご苦労が大変なものであったろうことは容易に想像できます。そして、そうしたご苦労が実ったかのように、MUA の創立 40 周年を記念する今年の第 5 回目コンテストには、当初予定していた参加者数 10 名を上回る 12 名が登録されたのです。

出場者公募の方法としては区内の公共施設、大使館、インターナショナルスクール、日本語学校等へのパンフレットの送付に加えて、SNS やクチコミによる宣伝にも注力してきました。また、MUA が開催する他の行事、例えば習字、盆栽、盆石等の会場でも、参加者に対する日本語スピーチ コンテストの前宣伝を欠かしませんでした。

今年は 40 周年記念ということもあり、司会者として出場者および見学者の皆さんに「40」に関する以下の質問をしてみました（答えはカッコ内）：

・40 年前 何が起こったか。(英国のダイアナ妃と チャールズ王子の結婚、ローマ法皇の初来日など)
・第 40 代天皇は だれか。（天武天皇。因みに今生　天皇の徳仁様は 126 代天皇）
・第 40 代アメリカ合衆国大統領はだれか。（ロナルド・レーガン）
・40 番目の元素は 何か。（ジルコニウム）

そして、今年は小さな出場者が数人おりましたので、その子達に向けた質問として、

・アイスクリームを 40 個食べたらどうなるか。（お腹がいたくなる。）

と、半分冗談のような問いかけもして、皆さんの緊張がほぐれたところでスピーチに入りました。

今年の最優秀賞者ネパール出身のパリヤル・ナビンさん（右の写真）は新聞配達をしていて、高齢のお婆さんから「すみません」と謝られました。この経験をもとに、なぜ 謝られたのかを考えました。そして、お婆さんはきっと『「自分のために、暗い中、配達をしてくれている配達員に感謝し、苦労をかけてすまない」という気持ちを伝えたかった』のだ、という考えに至りました。日本語では言葉の表面上の意味だけでなく、その裏にこめられている意図も汲み取ることが大切です。ナビンさんのスピーチからは、ちょっとした疑問をきっかけに深い考察を行い、ネィティブである私達さえ見落としがちな日本人の心情を理解した経緯が伝わり、これが審査員の先生方の心を掴んだのだと思います。

昨年から設けられた「会場特別賞」は見学している方々にも「これぞ！」と思うスピーカーに投票して頂く機会を与えるものです。ですから、来場した見学者の皆さんも各スピーカーの話にしっかりと耳を傾けることになります。

今回の日本語スピーチコンテストの受賞者のお名前、出身国、題名は以下のとおりです：

最優秀賞	Pariyar Nabin（パリヤル・ナビン） ネパール：「すみませんと 200 円」
港ユネスコ 協会会長賞	Chen Huang（晨黄：シンコウ） 中国：「感謝の心」
港区長賞	Sarah Emily Harrison（セーラ・エミリー・ハリソン） イギリス：「本当に必要ですか？」
審査員賞	Jomok Sahra Sicilia（ジョモック・サラ・シシリア） フィリピン：　「人生は前向きに進んで行こう」
優秀賞	Nguyen Thi Mai（グエン・ティ・マイ） ベトナム：「日本人は冷たい」
優秀賞	Yan Jinye　（顔金葉：ガンキンヨウ） 中国：「私が見た日本」
優秀賞	Lkhagvasuren Javzmaa（ラグハスレン・ジャブザマ） モンゴル：「コロナとわたし」
優秀賞	Tran Thi Bien（トラン・ティビエン） ベトナム：「諦めない」
優秀賞	Luke Chon（ルークチョン） 韓国（12 歳）：「ルークのジレンマ」
優秀賞	Maya Olivia Wheeler（マヤ・オリヴィア・ウィーラー） ニュージーランド/米国（6 歳）：「コロナ」
優秀賞	Janine Chon（ジャニンチョン） 韓国（9 歳）：「どうしてコロナがすきじゃないか」
優秀賞	Aibike Daiirbekova（アイビケ・ダイルベゴヴァ） キルギス共和国（7 歳）：「What is Japan like to me?」
会場特別賞	Sarah Emily Harrison（右側下から 2 番目の写真）

MUA の創設以来４０年という歴史の歩みはとても語り尽くせないものがあります。先人達のご苦労を無駄にしないように、今後も日本語学習者がその成果を発表する場としてこのコンテストを継続して開催し、国際理解を深める一助にしていきたいと考えます。

審査結果が出るまでスピーカーと参加者が歓談して国際交流を深めます

（港ユネスコ協会常任理事　田川純子）

クルーズ船とバスで東京探訪！「東京の森川海を知る」

日時：2022 年 1 月 30 日（日）　9 時 30 分～16 時 00 分

場所：日の出桟橋（Hi-NODE）集合（ウォーターズ竹芝にて解散）

港ユネスコ協会では、港区教育委員会および東京海洋大学水圏環境教育学研究室との共催、一般社団法人竹芝エリアマネジメントおよび一般社団法人竹芝タウンデザインの協力により「東京の森川海を知る」を実施し、港ユネスコ協会から参加した小学生から社会人までの 31 名の他、東京海洋大学の学生など計 40 名が参加しました。4 回目となる今回は、午前中に東京湾の運河と隅田川をクルーズ船で巡った後、午後は古川から神田川をバスで巡り、東京の森・川・海とそのつながりについて考えました。

この日は、集合場所となった日の出桟橋を 9 時 35 分に出発し、大井ふ頭、台場、東雲運河、豊洲運河、隅田川から築地、浜離宮を巡りました。乗船後、参加者が 9 つのグループに分かれ、それぞれのグループにモデレーターとして東京海洋大学および大学院の学生が加わって、佐々木先生のレクチャーとグループのディスカッションが交互に行われました。「レインボーブリッジはなぜ高い？」「台場はなぜできた？」「なぜ築地市場の移転先に豊洲が選ばれた？」「江戸時代深川に多くの文化人が集まったのはなぜ？」「築地（明石町）に多くの学校があったのはなぜ？」など、身近な場所やその歴史に関する質問が投げかけられ、海そして海と人との関わりについて活発な議論が参加者の間で行われました。

午後は、芝、東京タワー、麻布十番、有栖川記念公園、渋谷、代々木公園、新宿御苑、花園神社、江戸川公園などを経由しながら古川・渋谷川、神田川・隅田川の川沿いをバスで巡りました。車内では、佐々木先生と学生の方から東京の森・川・海、そして水と人々の生活の歴史に関する解説があり、地形や在来知を生かした東京の発展の歴史や、人々の生活が海に大きな影響を及ぼす中で、海に負荷をかけないために私たちに何ができるか、といったことについて佐々木先生から丁寧な説明がありました。参加者の方たちにとっては海を身近に感じるとともに、新しい視点で東京のまちを見つめる機会になったことと思います。ご協力いただいた佐々木先生、ならびに東京海洋大学関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

臨時ユネスコ協会便（2 月号）に発表された「ウクライナ危機に関する声明」（転載）

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、昨日(2022 年 2 月 27 日)に「ウクライナ危機に関する声明」を発表し、当連盟 Web サイトに掲載いたしましたので、ご連絡いたします。
https://www.unesco.or.jp/newsitem/12016/

ウクライナの危機に関する声明
2022.02.27

「戦争は人の心のなかで生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなくてはならない」という UNESCO の精神を、日本に世界に弘めるために創設された私たち公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、この度のウクライナ危機に重大な懸念を持ち、UNESCO 本部の声明を強く支持します。
UNESCO の精神に立ち戻り、ロシア政府は、直ちに力による問題解決を中止することを求めます。また世界の人びとは、ウクライナの平和のための声を挙げましょう。

ウクライナの最近の情勢に関する UNESCO の声明
2022 年 2 月 24 日
（DeepL を使用した仮訳）
UNESCO は、ウクライナで進行中の軍事行動と暴力のエスカレーションを深く憂慮している。国連事務総長が述べたように、こうした作戦はウクライナの領土保全と主権の侵害であり、国際連合憲章と相反している。

UNESCO は、国際人道法、特に「武力紛争の際における文化財の保護に関するハーグ条約」（1954 年）とその 2 つの（1954 年と 1999 年の）議定書を尊重し、あらゆる形態の文化遺産に対する損害の防止を確たるものとするよう呼びかける。

民主的な社会に必要不可欠の基礎であり、また市民の保護に貢献する、自由で独立した、また偏らないメディアを促すための、「紛争状況におけるジャーナリスト、メディア専門家及び関連職員の保護に関する国連安全保障理事会決議 2222 号（2015）」に基づく義務も、この呼びかけに含まれる。

UNESCO はまた、子どもや教師、教育関係者、学校に対する攻撃や危害を自制し、教育を受ける権利が守られるように求める。(以上)

なお、UNESCO のオリジナル英文声明文は下記のとおりです：

UNESCO Statement
February 24, 2022

UNESCO is deeply concerned about the ongoing military operations and the escalation of violence in Ukraine. As stated by the UN Secretary-General, such operations are violations of the territorial integrity and sovereignty of Ukraine and are inconsistent with the Charter of the United Nations.

UNESCO calls for respect for international humanitarian law, notably the 1954 Hague Convention for the Protection of Cultural Property in the Event of Armed Conflict and its two (1954 and 1999) Protocols, to ensure the prevention of damage to cultural heritage in all its forms.

This also includes the obligations under the United Nations Security Council Resolution 2222 (2015) on the protection of journalists, media professionals and associated personnel in situations of conflict, to promote free, independent and impartial media as one of the essential foundations of a democratic society, and which can contribute to the protection of civilians.

UNESCO also calls for restraint from attacks on, or harm to, children, teachers, education personnel or schools, and for the right to education to be upheld.

事 務 局 便 り

【法人会員募集】
昨年 9 月より、会員開発委員会を中心に法人会員の募集を開始していますが、12 月に新たに入会いただいた法人会員についてご紹介します。
12 月 6 日　株式会社 京浜様
港区東麻布 2 丁目に本社を構え、ベアリングをはじめとする機械要素部品を販売して 50 余年になる商社です。

【ようこそ新入会員】
法人会員：株式会社 京浜様、賛助会員：渡辺佳英さん

【開催中の事業】
☆日本語講座　田川純子先生　1/8 スタート　（土曜日・10：00～11：30）　計 10 回
開催場所：港区立生涯学習センター3 階 港ユネスコ協会事務局内

【今後の予定】
☆3 月 6 日　（日）13:00～15:30　盆栽教室
会場：港区立生涯学習センター305 号室
講師：川上 佳樹氏（有限会社清香園）
☆3 月 9 日　（水）14:00～16:60　世界を見よう！みなと UNESCO サロン for SDG s
「麗しの都 ROMA たより」
会場：港区立生涯学習センター305 号室
講師：樽見 秀爾氏（元三越伊勢丹社員でローマ三越勤務の経歴をお持ちです。）
☆4 月 6 日　（水）英語講座開講　中級英語：中沢万佐雄先生、ビジネス英会話：金森尚人先生
水曜日 18:30～20:00 英検準 2 級を目指す「中級英語」
木曜日 18:30～20:00 ビジネスに活きる英語力を養う「ビジネス英会話」
会場：港ユネスコ協会事務局
☆4 月 9 日　（土）日本語講座開講　田川純子先生
土曜日 10:00～11:30　会場：港ユネスコ協会事務局
☆4 月 20 日（水）18:00～港ユネスコ協会総会
18:45～40 周年記念事業（仮称）
☆6 月 19 日（日）14:00～16:00　2022 年度第 1 回国際理解講演会　「はやぶさの旅路と教訓」
会場：港区六本木　国際文化会館 講堂
講師：的川 泰宣氏（宇宙航空研究開発機構［JAXA］名誉教授）

【事務局の開館について】
港ユネスコ協会事務局が事務所を置いている港区立生涯学習センターは、施設の老朽化に伴う改修工事が行われ、事務局も一時閉鎖となっておりましたが、3 月 1 日（火）より開館いたしました。閉鎖中はご不便をおかけしました。
今後は、通常通り、祝日を除く火曜日～金曜日の午前 10 時から午後 5 時まで営業を致します。皆様のお越しをお待ちしております。

【港ユネスコ協会創立 40 周年記念誌の刊行について】
1981 年 10 月 17 日に創立された当協会は昨年 10 月に 40 周年を迎えました。これを記念して 40 周年記念誌の刊行が企画され、昨年来、討議を重ねてきました。過去 10 年間に積み上げた多様な事業実績を振り返るとともに、現在 10 ある委員会の活動とこれを支えて活躍する会員を紹介する内容となっています。本年 4 月に開催される年次総会にて配布できるよう、関係者で編集作業の仕上げに注力しているところです。

港ユネスコ協会事務局　火曜日～金曜日（祝日を除く）午前 10 時～午後 5 時
〒105-0004　東京都港区新橋 3-16-3　TEL03 (3434) 2300　TEL・FAX03 (3434) 2233
E メール：info@minatounesco.jp　ウェブサイト：https://minato-unesco.jp